

ブラックロック・アメリカ大陸ロング・
ショート・ファンド(ダイワ投資一任専用)

第7期末(2023年6月15日)	
基準価額	10,444円
純資産総額	3,198百万円
騰落率	△0.2%
分配金	0円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

追加型投信/海外/株式/特殊型(ロング・ショート型)

交付運用報告書

第7期(2023年6月15日決算)

作成対象期間(2022年6月16日~2023年6月15日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ブラックロック・アメリカ大陸ロング・ショート・ファンド(ダイワ投資一任専用)」は、このたび、第7期の決算を行ないました。

当ファンドは、ダイワファンドラップ アクティブ・シリーズを構成するファンドの1つで、マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてアメリカ大陸株式(米国、カナダおよびラテンアメリカ諸国の株式)等を投資対象として、ロングショート(買い建て・売り建て)ポジションを構築することにより、市場動向に左右されない投資収益の達成を目標に運用を行ないます。当期につきましても、これに沿った運用を行ないました。

ここに、運用経過について、ご報告いたします。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。

●「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

ブラックロック・ジャパン株式会社

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号
丸の内トラストタワー本館

運用報告書に関するお問合わせ先

電話番号: 03-6703-4300

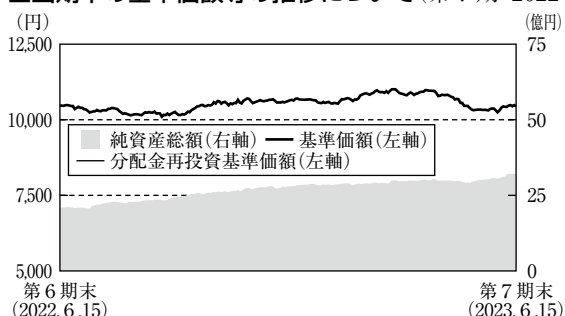
(受付時間 営業日の9:00~17:00)

ホームページアドレス

www.blackrock.com/jp/

◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について(第7期:2022年6月16日~2023年6月15日)



第7期首: 10,465円
 第7期末: 10,444円(既払分配金0円)
 騰落率: -0.2%(分配金再投資ベース)

- * 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- * 分配金再投資基準価額は、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額の期中騰落率は-0.2%となりました。
 当期、アメリカズ・ロングショート・マザーファンドは上昇しましたが、当ファンドにおいて信託報酬等コスト負担が発生することなどから前期末比で若干下落しました。

■組入ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
アメリカズ・ロングショート・マザーファンド	1.8%

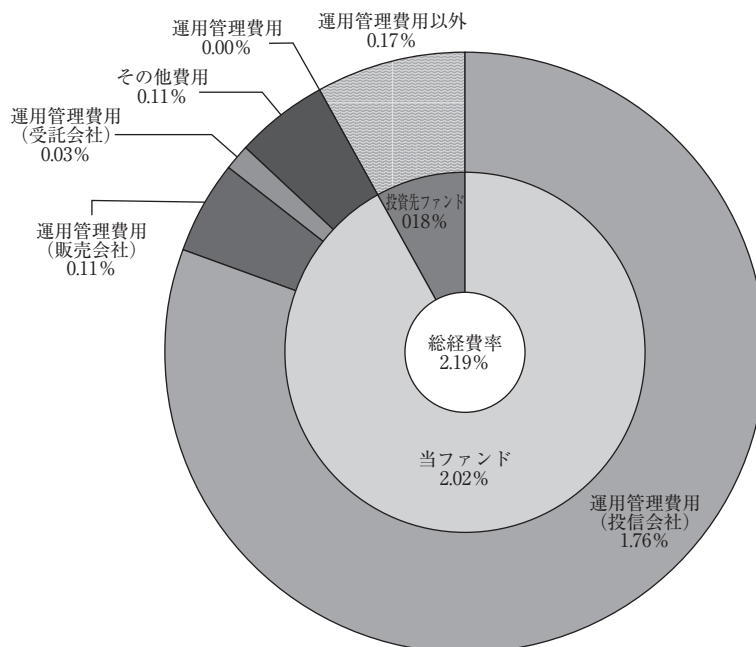
■1万口当りの費用明細

項目	第7期 (2022.6.16~2023.6.15)		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 200	% 1.901	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,538円です。
(投信会社)	(185)	(1.760)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(12)	(0.110)	販売会社分は、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(3)	(0.031)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	12	0.114	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.001)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(印刷費用・監査費用等)	(12)	(0.110)	目論見書および運用報告書の作成・印刷費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用等の諸費用
(その他)	(0)	(0.003)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	212	2.015	

- (注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。
- (注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は2.19%です。

総経費率(①+②+③)	2.19%
①当ファンドの費用の比率	2.02%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.17%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

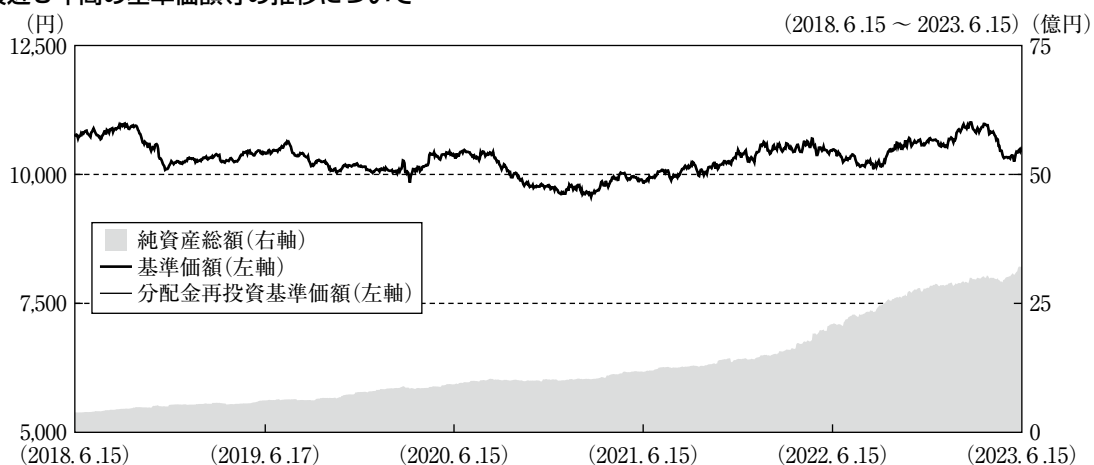
(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、2018年6月15日の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2018年6月15日 期初	2019年6月17日 決算日	2020年6月15日 決算日	2021年6月15日 決算日	2022年6月15日 決算日	2023年6月15日 決算日
基準価額(分配落) (円)	10,737	10,402	10,391	9,902	10,465	10,444
期間分配金合計(税込み) (円)	-	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	-	△ 3.1	△ 0.1	△ 4.7	5.7	△ 0.2
純資産総額 (百万円)	384	616	933	1,179	2,089	3,198

* 当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境について

＜北米・ラテンアメリカ株式市場＞

当期(2022年6月16日から2023年6月15日)において、北米株式市場はインフレやFRB(米連邦準備制度理事会)のインフレ対応策としての金融引き締め動向といったマクロ動向の影響や生成AIへの期待等の影響を受けました。2022年中はFRB関係者のタカ派的な発言は市場参加者のリスクテイク姿勢の重石となりました。しかし、FRB関係者からハト派的な発言が出ると市場参加者は急速にリスクテイク姿勢を強め株式市場は急速な反発を示しました。また実体経済への影響という観点でもFRBの動向が焦点となりました。特に2022年末に向けてはFRBの金融引き締めの結果としての米経済の減速懸念が意識され、2023年3月には金融引き締めの副作用としてシリコンバレーバンクなどの米国の地銀が破綻するなどしたことも投資家のリスクテイク姿勢の重石となりました。5月以降は生成AI関連への注目が強まり、関連する銘柄とそれ以外の銘柄群とで株価の動向が二極化しました。その後、6月に入り債務上限問題が解消するとともに株価の二極化は修正され、生成AIや半導体以外の銘柄群にも買いが広がる環境となりました。このように当期の株式市場はマクロ面の動向に加え、生成AIへの期待など様々な影響を受けました。

＜米国債券市場＞

当期、米国でのインフレ進展そしてFRBによる過去に例のないペースでの利上げにより、米短中期国債の利回りは、大幅に上昇しました。

ポートフォリオについて

＜当ファンド＞

期を通じて、当ファンドではアメリカズ・ロング・ショート・マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的な主要投資対象ファンドである「BSFブラックロック・アメリカズ・ダイバーシファイド・エクイティ・アブソルート・リターン・ファンド」を高位に、実質的な副次的投資対象ファンドである「ICSブラックロック・ICS・USTレジャーリー・ファンド」を低位に組入れた運用を行ないました。

アメリカズ・ロング・ショート・マザーファンドの各投資対象ファンドにおける市場別戦略運用経過およびパフォーマンス要因は以下の通りです。

＜BSFブラックロック・アメリカズ・ダイバーシファイド・エクイティ・アブソルート・リターン・ファンド＞

当ファンドにおいては、アメリカ大陸株式(米国、カナダおよびラテンアメリカ諸国の株式)等を投資対象として、ロング・ショート(買い建て・売り建て)ポジションを構築することにより、市場動向に左右されない投資収益の達成を目標に運用を行ないました。

当期末時点で、当ファンドは、相関性の低い3つの市場別戦略(「米国大型」、「米国小型」、「米国短中期」)に分散投資をしています。当期のパフォーマンスは、「米国大型」、「米国小型」がプラス寄与した一方で、

「米国短中期」がマイナス寄与し、ファンド全体ではプラスのリターンとなりました。

当期においては米国のインフレ進行やそれに対するFRBの対応策などのマクロ面の影響が市場参加者のリスクテイク姿勢に影響を与えました。金融引き締めの副作用としてシリコンバレーバンクなどの米地銀が破綻すると市場参加者は急速にリスク回避的になるなど、リスクテイク姿勢の変化が大きくなりました。個別銘柄レベルでは先行き不透明感が高まる場面では業績期待に基づく個別銘柄精査が強まる面もあり、このような環境においては多種多様な視点で銘柄を評価する、つまり個別銘柄の評価の観点の分散が、ある程度の有効性を発揮しました。

「米国大型」では主として「センチメント」、「ファンダメンタルズ」が有効性を発揮し、パフォーマンスにプラス寄与しました。ファンダメンタルズでは、バリュエーション関連、財務や企業体質に着目した投資アイデアなどがプラス寄与しました。バリュエーション関連では研究開発費対比のバリュエーションに着目した投資アイデアなどがプラス寄与しました。財務や企業体質に着目した投資アイデアでは外部借入比率や従業員満足度に着目した投資アイデアなどがプラス寄与しました。センチメントでは、当ファンドが注力しているビッグデータや、人工知能の一種である機械学習を活用した投資アイデアがプラス寄与しました。

「米国小型」でも主に「ファンダメンタルズ」、「センチメント」がパフォーマンスにプラス寄与しました。「ファンダメンタルズ」では、主に外部借入比率やバランスシートが急速に拡大していないか否かなど財務面に着目した投資アイデアなどがプラス寄与しました。「センチメント」では「米国大型」同様にビッグデータや、機械学習を活用した投資アイデアがプラス寄与しました。具体的には、経営陣のセンチメントやインターネット検索動向に着目する投資アイデアなどがプラス寄与しました。

「米国短中期」では株価の反発や足元の経済環境の変化に対応した投資アイデアを中心にマイナス寄与しました。株価の反発に着目した投資アイデアでは、個別銘柄の株価の平均回帰やニュースへの反応後の株価の戻り等に着目した投資アイデアがマイナス寄与しました。足元の経済環境の変化に着目した投資アイデアでは、ある企業が供給網の混乱や人件費の上昇に直面しているかなどの点に着目した投資アイデアなどがマイナス寄与しました。また個人投資家の空売り動向に着目した投資アイデアなどもマイナス寄与しました。

当期末時点におけるポートフォリオの市場別の戦略配分は、米国大型に約39%、米国小型に約33%、米国短中期に約28%の配分割合となりました。

＜ICS ブラックロック・ICS・USTレジャーリー・ファンド＞

主に、米国短中期国債、米国政府によって発行されるその他債務権および現先取引に投資することで、流動性と元本の安定性を確保しつつ、安定的なインカム水準を追求した運用を行ないました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは、特定のベンチマークを設定しそれを上回る運用を目指したものではありません。したがって当ファンドはベンチマークを設定しておりません。また、参考指数についても設定しておりません。

分配金について

今期の収益分配につきましては、見送りとさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行ないます。

■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期 2022年6月16日 ～2023年6月15日
当期分配金(税込み)	-円
対基準価額比率	-%
当期の収益	-円
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	487

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針について

引き続き、当ファンドではアメリカズ・ロング・ショート・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国、カナダおよびラテンアメリカ諸国の株式および株式関連の派生商品等に投資し、ロング・ショート(買い建て・売り建て)ポジションを構築する「BSFブラックロック・アメリカズ・ダイバーシファイド・エクイティ・アブソルート・リターン・ファンド」を実質的な主要投資対象ファンドとします。副次的な投資対象として、米国の短中期国債等に投資する「ICS ブラックロック・ICS・USTレジャーリー・ファンド」にも投資を行ないます。通常、実質的な主要投資対象ファンドへの投資割合を高位に保ちます。

アメリカズ・ロング・ショート・マザーファンドの各投資対象ファンドにおける今後の運用方針は以下の通りです。

<BSFブラックロック・アメリカズ・ダイバーシファイド・エクイティ・アブソルート・リターン・ファンド>

今後の見通しとしては、金融政策の動向よりも投資や消費トレンドの変化の有無が注目点となると想定します。FRBの金融政策に関しては今後の利上げ回数や金利水準が概ね見えてきている中で、今後の利上げがもたらす経済や株式市場へのインパクトは限定的と考えます。一方で、消費トレンドの変化や投資の増加が注目点となると想定します。特に経済再開の過程において空運や旅行などのサービス業関連の需要の急速な回復がサービス業におけるインフ

レの要因の一つでした。しかし2023年の夏以降にこのサービス需要が継続するかどうか、一方でサービスから財へと消費トレンドが戻るのかが今後の経済並びに銘柄選択にとって重要な要素になると想定します。仮にサービスから財へと消費トレンドが戻る場合には、インフレの鈍化が更に進展し投資も回復することで幅広い業種や企業において業績の伸びが想定され、株式市場には追い風になると想定します。このように様々な要素が複雑に絡み合う環境に対応できるよう、着眼点を分散させた様々な投資アイデアを活用し、ロング・ショート戦略を実行する方針です。

<ICS ブラックロック・ICS・USTレジャーリー・ファンド>

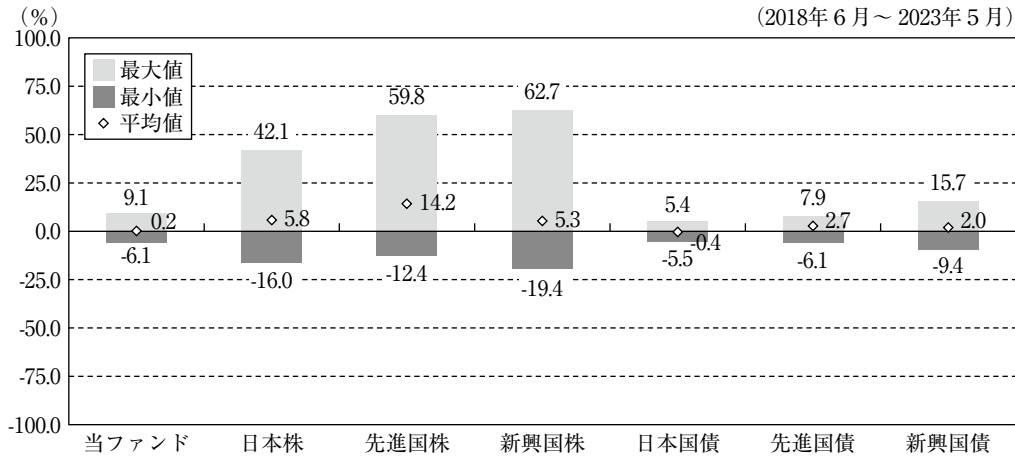
主に、米国短中期国債、米国政府によって発行されるその他債務権および現先取引に投資することで、流動性と元本の安定性を確保しつつ、安定的なインカム水準を追求した運用を行なう方針です。

◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信/海外/株式/特殊型(ロング・ショート型)	
信託期間	無期限(2016年9月26日設定)	
運用方針	アメリカズ・ロングショート・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてアメリカ大陸株式(米国、カナダおよびラテンアメリカ諸国の株式)等を投資対象として、ロングショート(買い建て・売り建て)ポジションを構築することにより、市場動向に左右されない投資収益の達成を目標に運用を行ないます。	
主要投資対象	子投資信託	【ブラックロック・アメリカ大陸ロング・ショート・ファンド(ダイワ投資一任専用)】 アメリカズ・ロングショート・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券を主要投資対象とします。
	親投資信託	【アメリカズ・ロングショート・マザーファンド】 「ブラックロック・ストラテジック・ファンズ(ルクセンブルグ籍投資法人)ブラックロック・アメリカズ・ダイバーシファイド・エクイティ・アブソルート・リターン・ファンド クラスX投資証券」(主要投資対象ファンド)および「インスティテューショナル・キャッシュ・シリーズplc(アイルランド籍投資法人)ブラックロック・ICS・USTレジャリー・ファンド エージェンシークラス投資証券」を投資対象ファンドとします。
運用方法	①アメリカズ・ロングショート・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国、カナダおよびラテンアメリカ諸国の株式および株式関連の派生商品等に投資し、ロングショート(買い建て・売り建て)ポジションを構築する投資信託証券を実質的な主要投資対象ファンドとします。副次的な投資対象として、米国の短中期国債等に投資する投資信託証券にも投資を行ないます。通常、実質的な主要投資対象ファンドへの投資割合を高位に保ちます。 ②実質的な主要投資対象ファンドのロングショート戦略は、ブラックロック独自の計量モデルを活用することで運用を行ないます。 ③実質外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。	
分配方針	毎年6月15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行ない、以下の収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 ■経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買損益(繰越欠損補填後、評価損益を含みます。)等の全額を分配対象額の範囲として分配を行ないます。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ■留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行ないます。 ※基準価額水準、市況動向等によっては分配を行なわないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。	

(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*上記は、2018年6月～2023年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

*各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

<各指数について>

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有する我が国を代表する指数です。東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値および東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行われるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

◇ファンドデータ

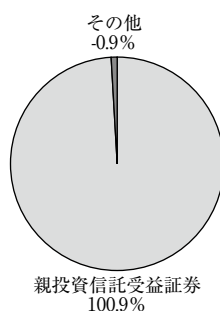
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

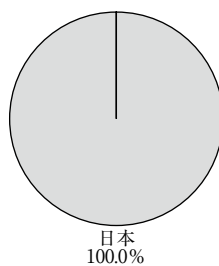
	比率
アメリカズ・ロングショート・マザーファンド	100.9%
その他	-0.9

(注) 比率は第7期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

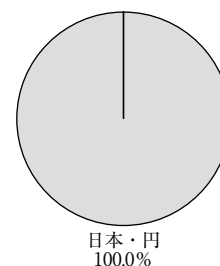
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第7期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

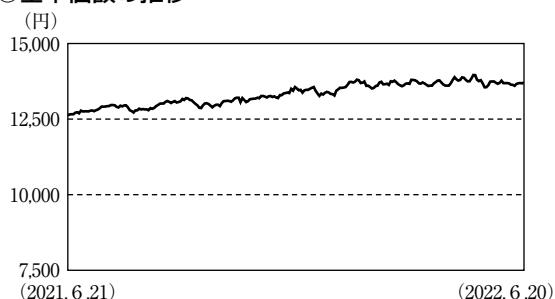
項目	当期末
	2023年6月15日
純資産総額	3,198,355,611円
受益権総口数	3,062,372,435口
1万口当り基準価額	10,444円

* 当期中における追加設定元本額は1,591,784,659円、同解約元本額は525,681,107円です。

■組入上位ファンドの概要

◆アメリカズ・ロングショート・マザーファンド

○基準価額の推移



○組入ファンド等

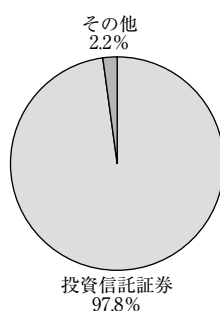
銘柄名	比率
B S Fブラックロック・アメリカズ・ダイバーシファイド・エクイティ・アブソルート・リターン・ファンド	89.2%
I C S ブラックロック・I C S・U S トレジャー・ファンド	8.7
その他	2.2

○1万口当りの費用明細

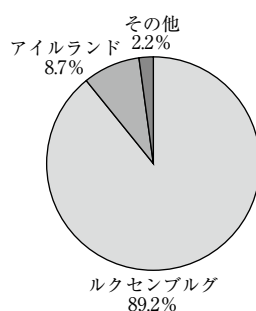
(2021.6.22~2022.6.20)

項目	当期
(a) 売買委託手数料	円 -
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用)	1 (0)
(その他)	(0)
合計	1

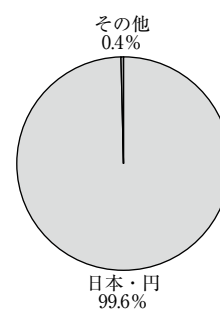
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については1ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 通貨別配分のデータは、実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

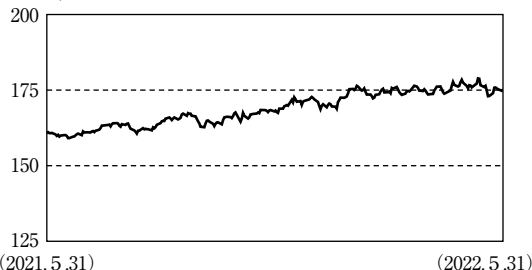
*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

■マザーファンドの組入上位ファンドの概要

◆BSF ブラックロック・アメリカズ・ダイバーシファイド・エクイティ・アブソルート・リターン・ファンド

○基準価額の推移

(米・ドル)



○上位10銘柄(ロングポジション)

銘柄名	通貨	比率
BLACK HILLS CORP	米・ドル	2.4%
DTE ENERGY	米・ドル	2.2
METLIFE INC	米・ドル	2.1
CMS ENERGY CORP	米・ドル	1.8
TRUIST FINANCIAL CORP	米・ドル	1.5
AMEREN CORP	米・ドル	1.5
FIRST INDUSTRIAL REALTY TRUST INC	米・ドル	1.5
OGE ENERGY CORP	米・ドル	1.5
ILLINOIS TOOL INC	米・ドル	1.4
ENTERGY CORP	米・ドル	1.4
組入銘柄数	1,574銘柄	

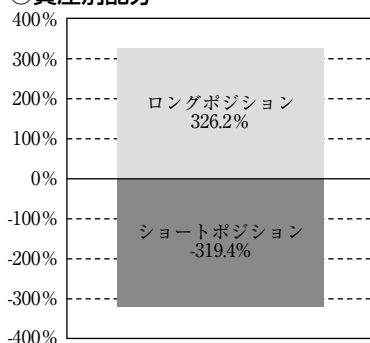
○下位10銘柄(ショートポジション)

銘柄名	通貨	比率
DUKE ENERGY CORP	米・ドル	-2.5%
REALTY INCOME REIT CORP	米・ドル	-1.7
COMMERCE BANCSHARES INC	米・ドル	-1.5
W. P. CAREY REIT INC	米・ドル	-1.5
EXELON CORP	米・ドル	-1.4
LOEWS CORP	米・ドル	-1.4
PPL CORP	米・ドル	-1.3
FASTENAL	米・ドル	-1.3
ARTHUR J GALLAGHER	米・ドル	-1.3
MCDONALDS CORP	米・ドル	-1.3
組入銘柄数	1,805銘柄	

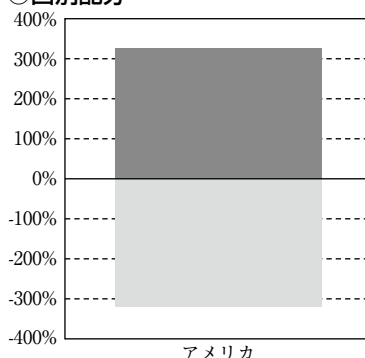
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

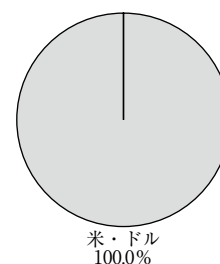
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 組入上位・下位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。